

津島市民病院の課題・問題点(要改善点)について

資料⑥

課題		現状	「新改革プラン【改訂版】」主な記載内容	できていること・取り組んでいること
① 診療体制の充実	麻酔科常勤医師の確保	麻酔科常勤医師不在。代務医師(6名)で対応。	非常勤医師で対応している麻酔科について、常勤医師の確保を図ります。	○市長・院長等意見交換会において、協議を開始。【H30.7】
	常勤医師の確保	常勤医師不足と思われる科…循環器内科、神経内科、脳神経外科、整形外科	津島市民病院の存続のためには医師確保が重要であり、特に循環器内科、神経内科、脳神経外科、整形外科の医師の充足が不可欠です。	○大学医局への医師派遣依頼。(役割のPR、現状・実績の周知など。)
	手術件数の増加	手術室手術件数…29年度:2,134件、28年度:2,245件、27年度:2,046件、26年度:1,968件 アンギオ件数(うち心カテ)…29年度:420件(261件)、28年度:287件(100件)、27年度:329件(161件)、26年度:294件(158件)	手術室利用の改善を行い、手術件数を増やすとともに、内視鏡・血管内治療手術等の充実を図り、手術、がん治療など、専門性の高い医療を提供します。	
	医療機器の更新	耐用年数を大幅に超過しているもの多数あり。	医療機器・医療情報システム整備計画に基づき、費用対効果などを十分精査して、医療機器等の購入を行います。	○医療機器更新計画(H30～32年度)の策定。
	施設の修繕	南病棟(築19年)、北病棟(築17年)は老朽化が進行し、大規模修繕が必要。		○予防保全型の維持管理を計画的に行うことにより、施設の長寿命化を図り、ライフサイクルコストを軽減する。
② 職員意識の改善	職員の意識向上	意識が低い、甘えがある、コスト意識・経営感覚の欠如などの指摘あり。	職員一人ひとりが、常に「経営意識」、「改善意識」、「サービス意識」、「当事者意識」などの意識改革に努めるとともに、人事考課制度による能力評価及び実績に基づく人事管理を行います。	○「経営意識」、「改善意識」、「サービス意識」、「当事者意識」の向上について、院長より通知。【H28.2】
	待遇能力の向上	説明不足、態度が悪い、時間がかかるなどの苦情あり。		○院長訓示(患者さんへの接し方など)。【H29.8】
	会議の活性化	経営会議:毎週水曜日開催。 常置委員会:36(チーム等の下部組織含まず)。 市長・院長等意見交換会 ほか。		○接遇研修の実施。 ○人事考課制度による能力評価及び実績に基づく人事管理。 ○看護職員に対する満足度調査を実施。【H30.6～7】
③ 地域の信頼の向上	紹介(救急)受入の円滑化	診療科により紹介予約確定方法にばらつきがある。事務員が医療職に状況等を確認し、受入の可否を返答する。	海部医療圏における二次救急病院として、「救急車は断らない」を基本とし、院内の協力体制を強化するとともに、生命に直結する疾患以外は、専門医不在であっても救急受入するなど、救急医療に確実に対応します。 医師を中心として定期的に地域の医療機関へ訪問・PR等を行い、慢性期の患者を積極的に地域の医療機関へ逆紹介するなど、紹介・逆紹介に今まで以上に注力し、津島市民病院での診療が必要な患者を受け入れます。 「市政のひろば」への掲載、市の行事や地域イベント等への参加、地域を対象とする研修・セミナー等の開催など、津島市民病院の医療職が地域の共有財産として活躍する場を広げます。	○紹介について、開業医を介さずに患者さんが当院へ電話して希望受診日を調整する「予約専用電話」を設置。
	紹介患者の増加	紹介件数…29年度:13,833件、28年度:14,309件、27年度:14,248件、26年度:13,422件		○病院まつりの開催。【H25年度～】
	他病院への患者流出の防止	流出率約40%(H26.7～H27.6津島市国保被保険者受診状況一覧表より算出)		○地域とつながるキャンペーンの実施。【H27.8・9】(あいさつ・声かけ運動継続実施中)
	地域住民の信頼回復	過去のよくないイメージが強く残り避けられている。		○市民病院営業活動(市民向け広報・啓発、開業医訪問、大学医局訪問、消防署訪問)を展開。【H29年度～】
	情報発信力の向上	ホームページ掲載情報の更新が滞り気味。当院でできることなどが正しく伝わっていない。ホームページが検索しにくい。		○「営業活動実行計画」の策定及び実施。【H30.7】